

# タンネの氷柱

(昭和八年寮歌)

卜部清君 作歌  
白石祐義君 作曲

## 一

タンネの氷柱消ゆる頃  
胡蝶は眠る花の宿  
牧場に結ぶ夢遙か  
青き希望の雪峯こえて  
四海に羽振る若鵬の  
石狩を立つ意気をみん

## 二

朝里の丘に烏頭咲けば  
蝦夷が芙蓉の雪とけて  
千尋の懸崖ゆくだけ入る  
忍路の沖の真白帆に  
万里の波濤翔らんと  
白鷗はしばし憩ふなり

## 三

真紅の夕陽山の端に  
もゆる紅葉をかざしたる  
友がゆくての野を遠く  
幌馬車の影消え去りぬ  
蓬髪風に靡けつつ  
懐情は尽きず果てもなく

## 四

十勝の峰に捲き起こる  
吹雪怒りて咆ゆる夜も  
旭光東に色めけば  
熊追ふ愛奴の雄叫びに  
大雪原の靈光や  
無絃琴の音ぞ高し

## 五

懸る垂氷に月くだけ  
千々の瞑想は来し方の  
六十の秋はしるくして  
緑に浮ぶ白亜城  
苔むす楡鐘の哀調きけ  
若き力を求むなり